



全国学力・学習状況調査の質問紙の結果をよみとく

校長 伊藤 聡

全国学力・学習状況調査については、5月の板一中だよりでもお伝えしております。今回は学力の方ではなく、学習状況に関わる質問紙調査の結果に注目して読み解いてみたいと思います。国語や数学の教科の調査とは異なり、「朝食は毎日食べていますか」「自分にはよいところがありますか」「学校に行くのは楽しいですか」など9年生の日常生活に関わる内容についての質問や、「〇〇の教科は好きか・大切か」など教科について回答する内容でした。

文部科学省は、質問紙調査の結果のポイントとして「テレビゲームをする時間は横ばい、SNSや動画視聴の時間は微増」とまとめています。さて、板一中はどのような結果だったのかを、令和3年度からのデータを並べて比べてみました。（凡例にある4以上は、4時間以上を指します）みなさんは、グラフを見て「自分がどの範囲に入っているか」を考えるだけでなく、どのように変化していると言えるかを考えてみてください。「平日、1日の〇〇の時間は、年を追うごとに増加している」というのが、共通して言えるのではないのでしょうか。もっと具体的に言い換えると、今回の質問紙調査への回答者は約100人ですので、「100人の中で約30人の子どもたちが、平日4時間以上ゲームをしたりSNSや動画を視聴したりしている」ということが分かります。国全体の結果と比べると、板一中の現状は微増と判断していい結果なのでしょうか。

さらに文科省の結果分析では、学校以外の勉強時間の減少傾向も伝えていきます。板一中の経年の結果をみると国全体の傾向と同じ結果が見て取れると思います。

さて、これからのみなさんの生活を考えるとゲームやスマホから完全に隔離された生活は考えにくいと思います。そして、特にスマホとの関わりは優先度が高い人が多いと考えられます。1日は、24時間という限られた時間ですので、みなさんにはゲームやスマホに多くを支配された生活にならないようにして欲しいと思います。そのためにはどうしたらよいでしょうか。自分一人でコントロールできる強さはあるのでしょうか。利用者であるみなさんが決意をしないと、変化にはつながらないでしょう。

